北翔大学短期大学部研究紀要　第62号　令和６年３月
Bulletin of Hokusho College No.62　March, 2024

江別研修旅行の学修内容とその成果

Contents of the Ebetsu Study Tour and its Achievements

菜原桂子 NAHARA Keiko　清水桂子 SHIMIZU Katsurako　松田久美 MATSUDA Kumi
梅村拓未 UMEMURA Takumi　類家斉 RUIKE Hitoshi
高橋さおり TAKAHASHI Saori　菊地達夫 KIKUCHI Tatsuo

１．問題の所在・背景

大学等における研修旅行の目的は，新たな知見の獲得と円滑な学生生活の遂行に大別できる。前者は，授業内容の基礎，補足，応用といった役割がある。後者は，学生同士の親睦や協働の意義に気付かせる役割がある。場合によっては，これら双方を含むこともあろう。よって，研修旅行は，教育的旅行の１つでもある。ただ，その企画の在り方には，多様性があり，教育的効果も差異が生じる。とりわけ，旅行代理店をはじめとする外部機関が，企画段階でどのような関わり方をするかで，大きく変容する。

2023年度の研修旅行先（こども学科）は，大学所在地と同じ江別市内とした。その背景として，以下のようなことがある。江別市内には，本学を含め４大学が位置する。４大学の学生数は，市内人口の約１割を占める。道内では，札幌市を除き，４大学（私立大学）が位置する事例はない。一方，卒業後の市内就業者は相対的に低く，地域課題の１つとなっている。現在，４大学では，市役所，商工会議所を交え「えべつ未来づくりプラットフォーム」といった大学連携を行っている。事業は，多岐にわたるものの，学生の地域理解（地域的特色の理解）も含まれる。その手法として共同開講科目「江別学」やふるさと江別塾（共同公開講座）の実施，共同地域活動を行っている。そのようなことをふまえ，学生の地域理解の試みとして，研修旅行において江別を知る機会を企画した。同時に保育・教育技能を高めることも目的に含めた。

保育者・小学校教員養成課程における研修旅行に関する先行研究・実践には，以下のようなものがある。

田畑（2017）では，2015～2016年度に筆者が引率教員として参加した海外インターンシップ（ボランティア）研修旅行における保育実践を取り上げた。今回は，スリランカ最大の非政府組織サルボダヤ運動の保育施設で主に造形活動の実践を行った。その目的は，①異文化交流

②保育者との保育内容における交流　③現地の保育の調査　の３つとした。その結果，実践を行うだけでなく，スリランカの保育に関わる政策や，サルボダヤ運動の保育の理念や実情を知ることで，日本の保育のあり方を再確認する機会となった。

菊地他（2016）では，学外研修「動物園」見学訪問の行程（事前後学習を含む）や内容の特色を示し，どのような教育効果を得たか考察した。その結果，学習成果として，丁寧な調べ活動を行いながら観察した様子を記録し，動物園への興味関心を高めるような声がけを思考することができた。また，単なる観察・記録したことを認識したのではなく，動物園における多様な事実から知識の再構成を行い，保育者・小学校教員として支援する意義を確認できた。

平成22年度研修旅行実行委員会　阿部士郎他（2011）では，出雲，松江，蒜山，倉敷のルートを巡る２泊３日の研修旅行を事前後の活動を含みながら取り上げた。研修旅行では，地域資源の観察，自然体験，全体レクリエーション等を行った。研修目的は，①研修内容を企画・運営し，集団行動を経験することにより，協調性，コミュニケーション能力，の向上を図り，教育者・保育者としての高い資質を形成すること，②自然，文化，社会に触れ，親しむことで教育者・保育者としての見識を広めること，③学生相互の交流，親睦を深めるとともに，互いを大切にし，尊重する心を育むことであった。研修旅行の成果として，表現やコミュニケーションの実践を通しての理解と能力の向上，互いの立場を理解・尊重しながら協力し，感情の共有を通して信頼関係を育むなどの体験により，教育者・保育者としての高い資質の形成，見識を拡張，相互理解と尊重する力を育むことを確認できた。課題として，準備の確保が難しい点を挙げた。

以上の研究成果を整理すると研修旅行は，保育・教育技能の理解・向上といったことを主目的とし，学修記録や様子を手がかりにその教育的効果が高いことを明らかとした。他方で，卒業後の保育・教育現場を見据えて，地域資源を活用しながら地域理解を行い，どのような技能を就業地で発展させるかまで視野に入れた応用的検討はほとんどない。大学等の場合，出身地を離れ，新たな地域で学修するような学生は多い。進学や就職のような環境変化の際，地域資源をどのように発掘し，どのように保育・教育へ活かすかといった理解は，保育・教育活動の意義や役割を高める１つとなろう。

そこで本稿は，保育者・小学校教員養成課程（こども学科）における研修旅行において地域（江別市）の理解と応用的側面を含む目的を設定し，学修構造や過程を述べ，学修観察や記録をもとに学修成果や評価を明らかにしようとするものである。

なお，対象とする研究資料は，2023年度こども学科１学年62名である。

２．全体構造と学修内容

図１は，研修旅行の全体構造を表したものである。その構造は，事前２コマ（基礎教育セミナーⅡ），当日（11月12日），事後２コマ（基礎教育セミナーⅡ）から成る。事前の１コマ目（10月24日）は，市内の企画課職員による講話を行った。具体的には，まず，江別について知っ

ていること（予想を含む）を書かせた。次に，江別の魅力と題して講話を行った。その後，ワークシートに講話内容をまとめさせた。事前の２コマ目（11月７日）は，研修旅行の目的，学修課題，全体構造，諸注意を取り上げた。研修旅行の目的は，①江別における主要な地域資源（産業や歴史を含む）の特色について，基礎的な認識ができること，②地域資源を保育・教育活動において，どのように有効的な活用（事前後を含む）ができるか，基礎的な思考判断ができることである。学修課題は，１石狩川の治水（洪水対策）の特色をまとめてみよう，２石狩川の水運（歴史を含む）の特色をまとめてみよう，３江別のレンガ（製造工場を含む）の特色をまとめてみよう，４展示陶芸・美術品から興味関心をもった１点を選び，その作品名と選択した理由を書いてみよう，５小動物（アルパカ・ヒツジ・ウサギ・仔豚・犬・馬等）への興味関心を高めるため，保育者・小学校教員として，どのような工夫が必要だろうか，６小動物（アルパカ・ヒツジ・ウサギ・仔豚・犬・馬等）との触れ合う場合，保育者・小学校教員として，どのような注意が必要だろうかの６つとした。これらは，訪問３施設において各２課題となるように設定したものである。加え，アースドリーム角山農場では，オプション課題としてアルパカ，ヒツジ，ウサギ，仔豚，馬の生態（特色），子育て，エサ，天敵等を調べてみようを示した。

その過程で研修旅行のしおりを作成・配付をした。しおりは，研修旅行の目的，方針（学修課題），施設概要，分布図，行程，学修記録欄，諸注意といった内容から成る。それに先立ち，挿絵となるイラストを描画するよう学生へ指示した。イラストは，建造物，自然，農産物の中から１つを選び，名刺サイズの専用紙に描き，１週間後（10月23日）に提出するものである（10月16日／こどもと環境）。対象として，建造物ではレンガの建物（公共施設，大学など），自然では森林，河川（石狩川），農産物では米，小麦，ブロッコリー（野菜），牛（酪農／乳製品），その他としてえべチュン（ご当地キャラクター）を例示した。提出後，研修旅行委員

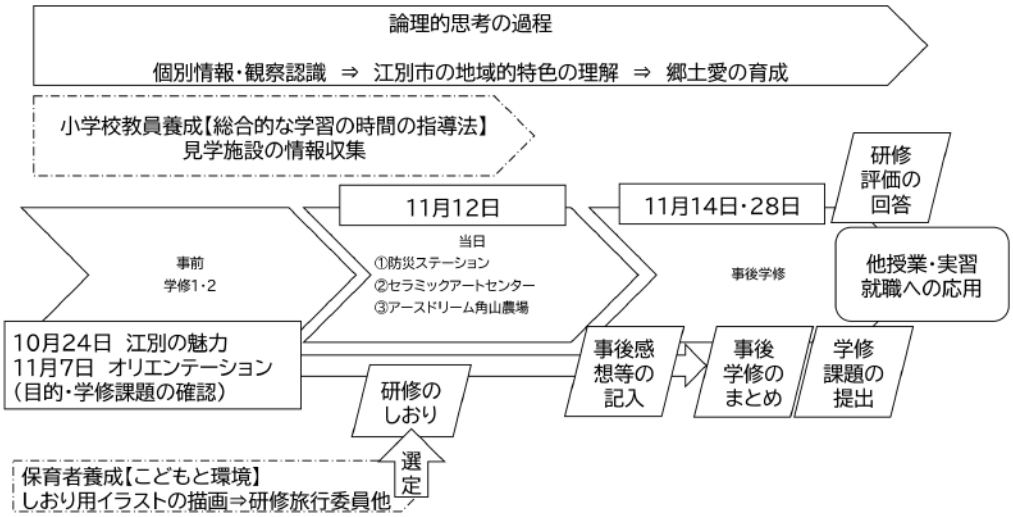

図１　研修旅行の全体構造

（各クラス２名）他により11点を選んだ。これらをしおりの挿絵とした。作品の作成者には，当日のウサギ抱っこ体験とえべチュンサブレの贈呈（事後）を特典とした。

その他に，訪問３施設（防災ステーション，セラミックアートセンター，アースドリーム角山農場）の概要を事前に調べさせた（教育コース／総合的な学習の時間の指導法）。

当日（表１）は，防災ステーション，セラミックアートセンター，アースドリーム角山農場の３施設を訪問した（総時間は５時間30分）。各施設では，資料や取り組み等の解説を行い，自由観察や体験活動を組み合わせた。それぞれの滞在・観察時間は，１時間以内とした。途中，「釜めし」飲食店にて昼食をした。行程では，第１便（貸し切りバス）と第２便（貸し切りバス）に分け，時差と訪問順を入れ替えながら周遊するようにした。

表１　当日学修の行程

基本行程	第１便（総時間　5時間30分）
北翔大学（アリーナ前　集合9時45分）	出発10時
13分（7.4km）	↓
①セラミックアートセンター 滞在60分（解説30分　自由30分）	到着10時15分(+2分) 出発11時15分 （集合11時10分）
8分（5.1km）	↓
②昼食「やか多」 滞在45分（食事30分以内）	到着11時30分（＋7分） 出発12時15分 （集合12時10分）
5分（2.6km）	↓
③防災ステーション 滞在60分（解説30分　自由30分）	到着12時30分（＋10分） 出発13時30分 （集合13時25分）
17分（11km）	↓
④アースドリーム角山農場 滞在60分（解説15分　自由45分）	到着14時（＋13分） 出発15時 （集合14時55分）
20分（12.5km）	↓
北翔大学	到着15時30分（＋10分）

注１）移動時間及び区間距離は、Googlemapにおける経路（経由地）算出による。
注２）第2便は30分遅れで出発。
①防災ステーション②昼食③セラミックアートセンター
④アースドリーム角山農場の順。

続いて，事後学修の内容を述べる，まず，直後（11月14日）に研修旅行の感想レポートを書かせた。次に（11月28日），研修旅行の目的，全体構造，学修課題を確認し，施設説明の補足（地形の特色，市街地形成の特色）をした。具体的には，地産地消（SDGsの関連）の構造と

して，江別産食材（サラダ＝野菜／ブロッコリー，ステーキ＝えぞ但馬牛，パン＝小麦，ヨーグルト＝乳牛，純米酒＝米）を例示しながら図解説明した（図２）。その後，研修旅行の目的１の関連として江別市の地域構造／地域的特色，研修旅行の目的２の関連として他地域における教育・保育教材の発掘について図解説明した（図３）。最後に，江別市の地域的特色と他地域における教材発掘・発見の可能性についてのまとめをワークシートへ書くよう指示した。合わせて，学修課題の成果の提出（12月12日まで）と研修旅行の評価（12月12日まで）するよう確認・指示した。

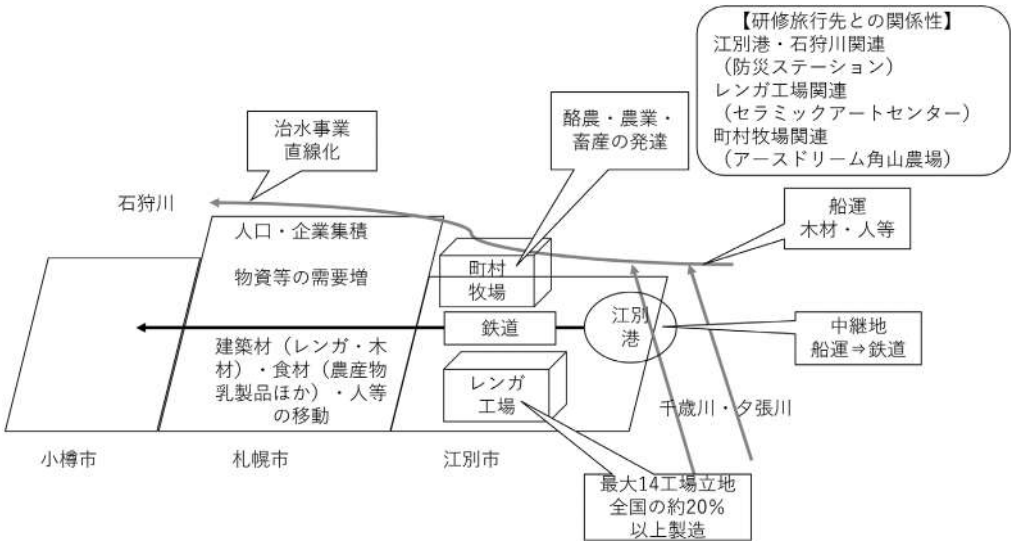

図２　江別市の地域的特色（研修旅行の目的１の関連）

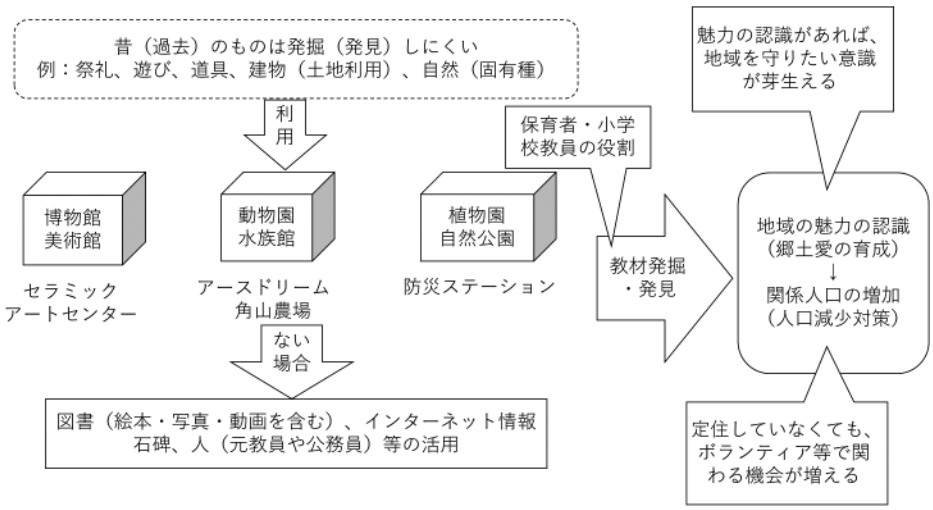

図３　他地域における教育・保育教材の発掘の可能性（研修旅行の目的２の関連）

写真１　江別市セラミックアートセンターにおける展示資料解説（左）と体験活動の様子（右）

写真２　江別河川防災ステーションにおける展示資料解説の様子

写真３　アースドリーム角山農場における動物との触れ合い（左）と遊具体験の様子（右）

３．学修成果の内容と考察

本章では，研修旅行の直後に実施した感想レポートの内容を取り上げる。調査方法は対象学生が２つのテーマに基づき，レポート形式で記述し，地域の特色や資源をどのように保育・教育活動に有効的に活用できるのか，園外保育や野外活動において引率者としての心得や留意点について，イメージしながら具体的にまとめ，研修旅行における学びの効果を検証するようにした。調査内容としては，対象学生たちに対して，主に２つのテーマについて自由にまとめるように示した。１つは「研修旅行に参加して印象に残った学びの内容についてまとめる」，２

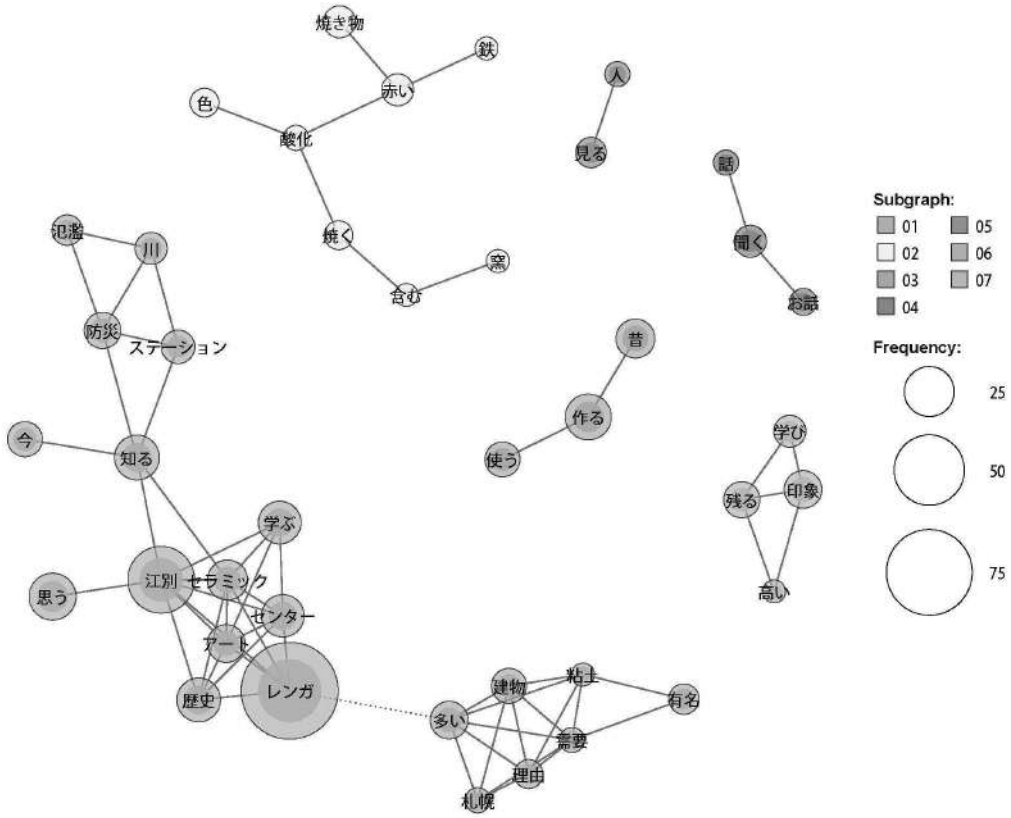

図４　テーマ１におけるテキストマイニングの結果

つ目は「引率者として訪問先を訪れた時の留意点について場面を絞って具体的に述べる」というものである。感想レポートの内容を，すべてテキストデータとし，語句のつながり，および重要度を分析するためにテキストマイニング（QSR International, NVivo）を行い，ワードクラウドを出力した。対象学生たちの自由記述の中で頻出度が高い語句ほどワードクラウドの中で大きく中央に表示される。表示内容をそれぞれ，テーマ１に関する記述を（図４），テーマ２に関する記述を（図５）として分析を行う。

研修旅行を経験して，自由記述の内容をテキストマイニングによって分析した結果，「レンガ」「江別」「歴史」の語句の頻出度が高かった（図４）。学生たちはまず，「江別」の「アート」や「レンガ」から自分たちの大学がある江別の街に関する「歴史」や「レンガ」に触れることが大きな学びにつながったことがうかがえる。具体的な学びとして，「レンガ」が「赤」い理由として「鉄」の「酸化」によって「錆」びて「赤」くなるため「レンガ」は「赤」いという事を「知」り得たことは印象に残ったようである。また，「昔」「作る」「使う」の語句のつながりからは，レンガは昔，一つひとつ手作りの作業で作られ，作った数が多ければ多いほど給料が高かったという地道な労働に関する内容が，学生の心に残った内容であることがうかがえ，

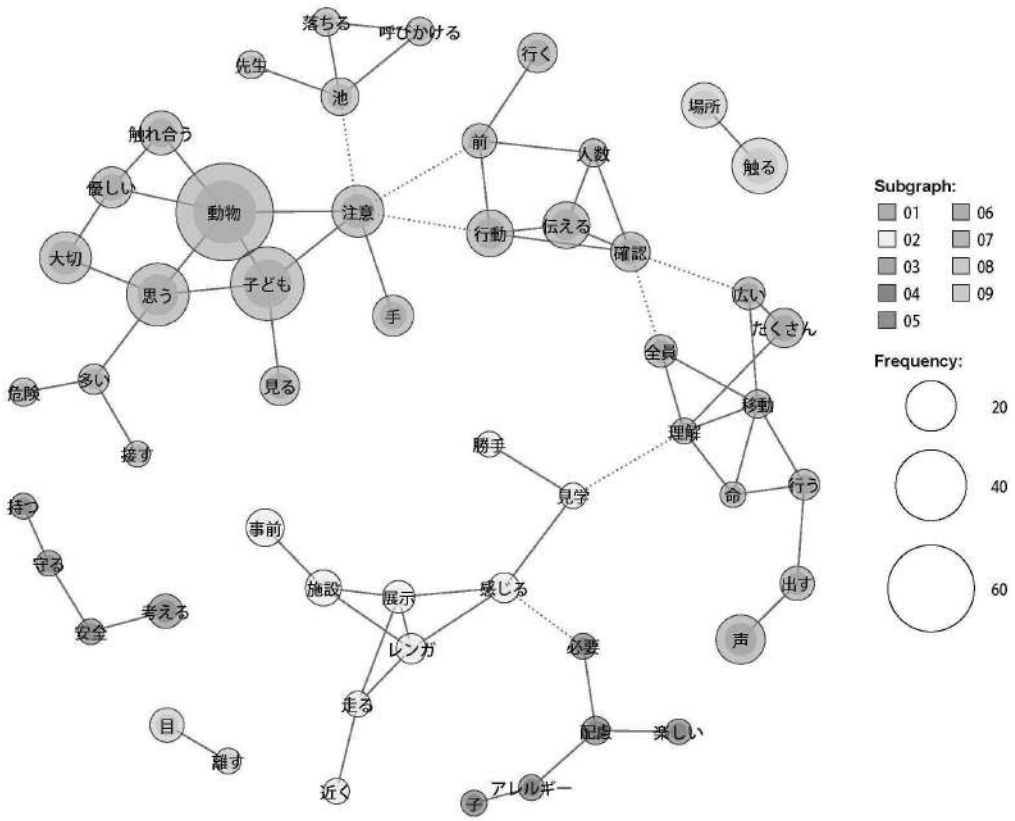

図5　テーマ2におけるテキストマイニングの結果

今は「レンガ」が作られる工程や使用の仕方が違う点も「歴史」に触れた「学び」になったのではないだろうか。また，「建物」に関することや「焼き物」が作られる工程についての「学び」の他，「防災ステーション」では，実際に河川に行って受けた説明から，「川」の「氾濫」を繰り返し，その後の工夫により，現在の「川」の形成になったということも，新たに「知」ったことのようである。図5では「子ども」を連れていくという点について，どこに「注意」したらよいか，今回で言えば「子ども」「動物」「触れ合う」等の語句の頻出度の高さから，アースドリーム角山農場での体験からイメージして具体的な記述を行った傾向がうかがえる。「動物」「触れ合う」「優しい」「大切」「危険」等の語句からは「動物」と接する際にはどのようなところに配慮が必要で，注意点としてどのようなことを指導しなければいけないのか，といったところに対して学びがあったようである。触れ合う時の注意点の他には「命」という語句から，動物の触れ合いを通して「命」の大切さを伝えることができるようになるとよい。その他には「人数」の「確認」や「行動」の「前」に伝えるべきことを「伝える」ことなどについても気づきがあったことがうかがえる。安全面についても実際の場所から「池」「落ちる」の語句から，子どもたちの動きに対して想定し「危険」を回避するための気づきがあったようである。今回は一つひとつの場面から園外保育や野外活動を行う際，学びと同時に子どもたちの安

全に配慮することの重要性をしっかり認識することができた。

4．学修記録の効果と評価

本章では，事前学修の内容として，江別市について「知っていること」，事後学修記録として，研修旅行の数値的評価と目的１・２のまとめの内容を取り上げる。

（1）事前学修内容の考察

表２は江別市について「知っていること」を書かせ，表出した内容の一覧である。それらは，教育，産業，建物，自然，歴史，その他に分けることができた。まず，教育に関しては，「４つの大学（北翔・札幌学院・酪農学園・北海道情報）がある」「学生が多い（学生街である）」，産業では「レンガ（製造）が有名」「農業が盛ん」「酪農／町村牧場」などの記述があった。建物については，「蔦屋書店」「エブリ（旧ヒダレンガ工場跡）」「北海道立図書館」「飲食店（大学周辺）が多い」「住宅街が多い」「家賃が安い」，また自然については「自然が多い」「多雪」「野幌森林公園」，さらに歴史については，「洪水／浸水があった」が挙がった。これらの多くは，大学周辺における直接の体験・経験によって書いたものと考えられる。その理由として，「学生が多い」「北海道立図書館」「飲食店が多い」「住宅街が多い」「家賃が安い」「野幌森林公園」等，大学周辺で確認できるものが多い。例えば，「飲食店が多い」の場合，大学周辺の店名（スリーエッグ，サンタマ，キャロルハウス等）がみられた。一方で，周辺外の個別事象は少ない。また，町村牧場，蔦屋書店，エブリといった周辺外の事象は，観光資源・スポットとして有名なものである。よって，周辺外の情報は，授業等で得た知識と考えられる。このような傾向は，入学後の半年，さらには自宅外学生であれば，なおさら強いものと考えられる。

表２　江別市について「知っていること」で表出した内容の一覧（予想）

【教育】 ・４つ大学（北翔大学・札幌学院大学・酪農学園大学・北海道情報大学）がある ・学生が多い（学生街） 【産業】 ・レンガ（製造）が有名 ・農業(小麦・野菜／ブロッコリー・米)が盛ん ・酪農（牛）／町村牧場 【建物】 ・蔦屋書店 ・エブリ（旧ヒダレンガ工場跡） ・北海道立図書館 ・飲食店（大学周辺）が多い ・住宅街が多い ・家賃が安い	【自然】 ・自然（緑／樹木）が多い ・多雪 ・野幌森林公園 【歴史】 ・洪水／浸水があった（過去に） 【その他】 ・えべチュン（ご当地キャラクター） ・大泉洋（出身地） ・コロナ感染者が多い （16.42　　道内　10.43　１月上旬） ・観光客が少ない ・海がない ・地下鉄がない ・特急列車が市内の駅に停車しない ・札幌の隣町

資料）事前学修ワークシート。

（２）事後学修結果の考察

事後には，研修目的（１・２）を理解する上で，事前後と当日の学修で，どの程度有効であったのか４段階の評価を尋ねた。具体的には，項目１では「事前学習１・２は，研修目的１・２を理解する上で有効であったか」，項目２では「当日学習は，研修目的１・２を理解する上で有効であったか」，項目３では「事後学習は，研修目的１・２を理解する上で有効であったか」，項目４では「事前・後学習と当日学習の一連の枠組みは，研修目的１・２を理解する上で有効であったか」である。４段階評価は，評価４（大変有効であった），評価３（有効であった），評価２（あまり有効ではなかった），評価１（有効ではなかった）とした。

回答者は，事前後と当日学修，すべての出席者52名とした。その結果は，４項目すべてで高評価（評価４・３）を得た（評価２・１の回答はなし）。具体的には，項目１の場合，評価４が27人，評価３が25人，項目２の場合，評価４が35人，評価３が17人，項目３の場合，評価４が31人，評価３が21人，項目４の場合，評価４が31人，評価３が21人であった。また，４項目すべてにおいて評価４が最多数であった。最多数の結果でみれば，研修目的の理解の有効性は，当日（35人），事後（31人），事前（27人）学修の順であった。このことから，その構造化も有効に働いた。以上から，事前後を含む研修旅行の内容・構造は，高い学修理解に役立ったものと判断できる。

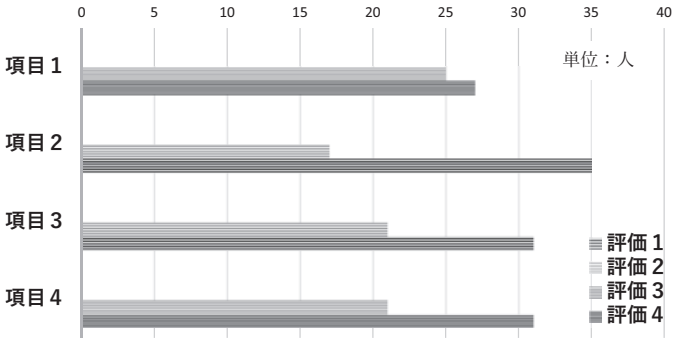

図６　事後における研修旅行の評価
資料）アンケート調査。

表３　事前後学修におけるワークシートの評価基準例

	評価Ａ（高評価）	評価Ｂ（標準評価）	評価Ｃ（低評価）
事前学修（予想）	市内の事象について多数記入している	市内の事象について一定数記入している	未記入 誤答／理解不足
事前学修（まとめ）	多面的・多角的にまとめている	一側面・視角を中心にまとめている	未記入 誤答／理解不足
事後学修 （研修旅行目的の理解） 重点	事象間の関連性を考え，具体的事例を交えまとめている	事象間の関連性を考えまとめている	未記入 誤答／理解不足
学修課題１～６	多面的・多角的に記入している	一側面・視角を中心に記入している	未記入 誤答／理解不足

表３は，事前後学修におけるワークシートの評価基準を示したものである。具体的には，学修記録の中で事象数の多少，内容が複眼か単眼か，または具体的か抽象的かによって３段階で

判断できるようにした。とりわけ，内容では，事象間の関係性を重視した。低評価は，未記入や誤答の場合とした。学習記録は，大半が，標準評価または高評価であった。

研修旅行の目的１に関するまとめ（事後学修例１）

・レンガが赤いのは，レンガに含まれている鉄が関係している（酸化焼成⇒還元焼成） 江別でレンガ有名なのは（牧場，鉄道，レンガ，港） １粘土がとれる　２小樽や札幌でのレンガの需要が高かったから。 ３平地が多く，天日干しに最適　４石炭がとれるから ・石狩川の水運 移民・囚人の開墾⇒大量の木材の発生⇒木材の産業⇒富士製紙の進出

資料）事後学修ワークシート。

研修旅行の目的１に関するまとめ（事後学修例２）

・石狩川は日本で３番目に大きい川であり，元は１番目だった。 ・江別の市街地は，標高が高く，その周りには川や農地がある。 ・川の蛇行は氾濫の原因になるため，真っすぐにする努力があった。しかし，真っすぐになったことで海からの水も入りやすいため，津波が心配される（石狩川は今も約90度に曲がっていて危険）。 ・地形が平らであることや都市近郊であること，石炭がよく採れる岩見沢方面が近いことなどが関係し，レンガの生産が盛んである。

資料）事後学修ワークシート。

続いて，研修旅行の目的１について，どのようにまとめたのか例示する（高評価）。事例１は，レンガ製造について，地質，近接地での需要，地形，採炭，港といった関連性を用いて産業の成立をまとめた。加え，労働力，木材需要，製紙業の進出といった過程を示しながら水運の発達を位置付けた。

事例２では，河川と地形の２つの視点を用いて，土地利用の様子を説明した。その土地利用では，河川の氾濫によるマイナス面と平坦地・採炭地と大都市との近接性からレンガ製造となったプラス面を取り上げた。

双方とも，事象間の関係性を考え具体的事例を交えて説明したものと判断できる。事例１では，レンガ製造を中心として，事例２では，自然環境を中心として，その関連性を示し，なぜ，レンガ製造が有名になったのか，どのように土地利用や産業立地したのかが，説明された。

研修旅行の目的２に関するまとめ（事後学修例１）

その地域における教材を用いるのは，まず詳しく調べる必要があると考える。その施設には，どのようなものがあり，何歳が対象で，何を扱っている場所などについて，一度まとめることが望ましい。また，目的は発掘，発見なので，有名どころよりはあまり知らないスポットを取り上げると良いと考える。そして，施設の概要などをまとめたものを比較し，そこを訪れることで，子どもたちにどんなことを促したのか（郷土愛の育成，地域を守りたいという意識，人口減少対策について考える）を考えて，決定するということが良いと考える。

資料）事後学修ワークシート。

研修旅行の目的２に関するまとめ（事後学修例２）

私の地元は「留萌」なのですが，人口の割合的に高齢者が非常に多い地域となっています。高齢者施設に出向き，話しを聞く時間を設け，昔の遊びや留萌の歴史について学ぶ機会をつくる。昔の人からの話は，教材発見（教員）にもつながり，子どもたち自身，自分の地域について興味関心を持てるものになると考えます。

資料）事後学修ワークシート。

研修旅行の目的２に関するまとめ（事後学修例３）

私の地元はオホーツク海に面していて，毛ガニ，鮭，昆布などの漁獲量が多く，酪農や韃靼そばの作付面積が日本一です。漁協組合や農業組合の職場見学させてもらったり，調理実習で食材を提供してもらったり，魚のさばき方を教えてもらった経験があります。そのような影響で地元への愛着が湧くと思います。

資料）事後学修ワークシート。

次に，研修旅行の目的２について，どのようにまとめたのか例示する（高評価）。事例１では，施設の情報を収集して，発達年齢に合わせた利用を考え，どのようなことを理解させるべきか見極めることの重要性を取り上げた。その結果，地域への愛着が生まれ，人口減少に役立つ可能性を示した。

事例２では，出身地の様子を振り返り，古老への聞き取りを行いながら，昔の遊びや地域の様子を引き出すことができる可能性を述べた。その結果，地域のこどもたちはもちろん自身の教材発見の機会となることも取り上げた。事例３では，出身地での経験を振り返りながら，地域での施設見学をきっかけとし，素材の活用体験した内容を引き合いに出し，地域への愛着が生まれる可能性を述べた。

いずれも，今回の研修旅行の経験を振り返り，それぞれの出身地における教材発掘・発見の可能性・有効性を示すものであった。事例１では，施設利用する場合するの留意点を，事例２

では，施設を用いない場合の別の方法を，事例 3 では，自身の経験からの施設見学の再評価を説明した。

5．お　わ　り　に

以上，本稿は，保育者・小学校教員養成課程（こども学科）における研修旅行において地域（江別市）の理解と応用的側面（保育教育技能の向上）を含む目的を設定し，それらの学修構造や過程を述べ，学修観察や記録をもとに学修成果や評価を明らかにしようとするものであった。

学修活動の流れを振り返ると，事前学修では，まず江別市の事象についての知識を確認し，江別の全般の特色を理解させた。同時に研修旅行の目的，学修課題を示しながら，研修旅行の全体構造を共有した。当日は，各施設の展示資料や活動の解説と学修課題に照らした観察や記録を行った。ここでは，①石狩川の歴史的活用，②レンガ製造の背景と発展，③動物との触れ合いを学んだ。中でも，①と②は，江別市の地域的特色を構成するものである。また，③も，酪農や畜産業では関係性があり，地域的特色の構成に一部含まれる。事後学修では，直後に感想を記述させ，少し空けて，各施設における説明補足と研修旅行の意図を示し，学修内容を整理させた。最後に研修旅行の目的の理解との関係から学修内容や活動，それら構造について評価を尋ねた。加え，学修課題の内容を確認し，提出させた。

研修旅行の成果は，江別市の地域的特色を理解しながら，学修内容・活動を通じて，その後の保育教育活動における地域資源の活用・意義を構想できたことである。その構想は，研修旅行の目的 2 の学修記録によって確認することができた。とかく，研修旅行は，観光的要素が強く，高揚感ばかり印象が残り，総じて満足度も高くなる傾向がある。その結果，学修目的や内容が形骸化したり，理解不足になったりといったことが起きやすい。そのような課題の軽減として，目的や学修課題の明確化，それを支援補完する事前後の学修活動の徹底，それらの構造化が有効に働いたものと考えられる。

今後の課題は，研修旅行の目的 2 の実現やその効果の見極めである。卒業後，各地において保育・教育活動を行う中で，地域資源の発掘・教材活用を持続的に行い，園児や児童に地域への愛着を生じさせ，地域への貢献・関わりといった意識・行動改革に変えることができるかである。これらの効果は，長期間の段階的な確認を要する。他方，地域の人口減少の鈍化や関係人口の増加といった目に見える形での変容があれば，学修内容・活動の効果の一端として評価できるかもしれない。

付　　記

本稿の内容は、日本環境教育学会北海道支部研究大会（2024年２月24日）でオンライン発表（発表者：菊地達夫）した。

文　　献

菊地達夫（2023）：オンライン研修旅行の実践と成果・課題－サケのふるさと千歳水族館・えこりん村を事例としてながら－，野外文化教育第21号，pp.18－25.

菊地達夫他（2016）：学外研修「動物園」における取り組み内容と教育効果，北翔大学短期大学部研究紀要第54号，pp.53－66.

田端智美（2017）：サルボダヤ運動（スリランカ）における保育実践，桜花学園大学保育学部研究紀要第15号，pp.175－186.

平成22年度研修旅行委員会　阿部士郎他（2011）：教育者・保育者養成における研修旅行の意義と課題－山口学芸大学２年生による研修旅行を通して－，山口学芸研究紀要第２号，pp.45－66.